



創立 50 周年記念 第 1 号

2012 年 7 月 11 日 (水) 発行

編集・発行 静岡県立清水南 高等学校・同中等部 新聞部

エアコン設置を決定

工事は来年夏休みに

創立 50 周年記念事業実行委員会

後援会は記念事業に対する積立金一億三千万円のうち、今年度は八千万円を取崩して実行委員会へ助成した。実行委員会は記念事業として教室等へのエアコン設置(平成二十五年度夏休み工事予定)を決定した。今号では実行委員会のメンバーに取材し、創立五〇周年にかける思いを聞いた。

初代校長の意思を継いで山梨真会長第一期生 本校の同窓会長でもある山梨真さんは「初代校長の福井半治先生が五のつくときに記念事業をやると言った意思を継いで、二十五周年のときに南陵館を作った。今回の五〇周年ではエアコンを設置する。もっと世界に輩出できるような人材を作っていく。まずは英会話。さらに、夢を持って仲間と語り合いたい。世界基準の人間を作りたい」と五〇周年記念事業に向けての意気の願望を語った。



山梨さんは「母校の中で南高が一番大事な学校。高校の三年間は心が揺れ動く時代だと思う。南高は勉強、部活動とバランスよく過ごせる学校。南高で得られる友は人生の友になる」と南高の良さを話した。自らの信念として、「どうしたら一番になるかを考えて行動している。一番になると考えないとがんばれないと思う」と話した。また、「グラウンドから海までを本校の敷地にしたい。机に座って勉強するだけでなく、広く世界を見てほしい」と一期生としての思いを語った。



吉田さんは「良い先生にも恵まれていた高校時代だった。先生にはたくさん助けられた。南高生には、人間性にあふれ、お互いに信頼できるといえると思う。また目標となる人生指針を持つて色々なことに取り組んでほしい」と話した。

柴善久委員(第一期生) 柴さんは「スポーツ、学業に対して目標を持って頑張りたい。目的意識を持つことで頑張れる。少しでも上を目指すことが大切」と話した。

吉田昇副会長(第六期生) 吉田さんは「良い先生にも恵まれていた高校時代だった。先生にはたくさん助けられた。南高生には、人間性にあふれ、お互いに信頼できるといえると思う。また目標となる人生指針を持つて色々なことに取り組んでほしい」と話した。

柴善久委員(第一期生) 柴さんは「スポーツ、学業に対して目標を持って頑張りたい。目的意識を持つことで頑張れる。少しでも上を目指すことが大切」と話した。

松永一安委員 松永さんは南高の卒業生ではないが、二人のお子さんが卒業生であることから、自分の母校のように感じると話してくれた。「南高の生徒一人一人に高い目標を掲げてほしい」と期待を込めた。

宮城島安宏顧問 宮城島さんは本校生徒に対し、「元気がよいということは最終的に心が強くなるということ。悩みなどに負けずに、心を強く持ち、気持ちの良いあいさつができるようになってほしい」と期待を込めた。

林博道委員(第九期生) 林さんは南高の生徒に対して、「他の高校に比べても個性があふれている。失敗は積み重ねて成功になるといふことを忘れないでほしい」とアドバイスを送った。

松永一安委員 松永さんは南高の卒業生ではないが、二人のお子さんが卒業生であることから、自分の母校のように感じると話してくれた。「南高の生徒一人一人に高い目標を掲げてほしい」と期待を込めた。

宮城島安宏顧問 宮城島さんは本校生徒に対し、「元気がよいということは最終的に心が強くなるということ。悩みなどに負けずに、心を強く持ち、気持ちの良いあいさつができるようになってほしい」と期待を込めた。

伏見生委員(第一期生) 伏見さんは高校時代バスケ部に所属。練習は厳しいものであったが、練習したからこそとても強かった。その経験をふまえて生徒には「何のためか考えて行動してほしい。追求することを忘れないで」と話した。

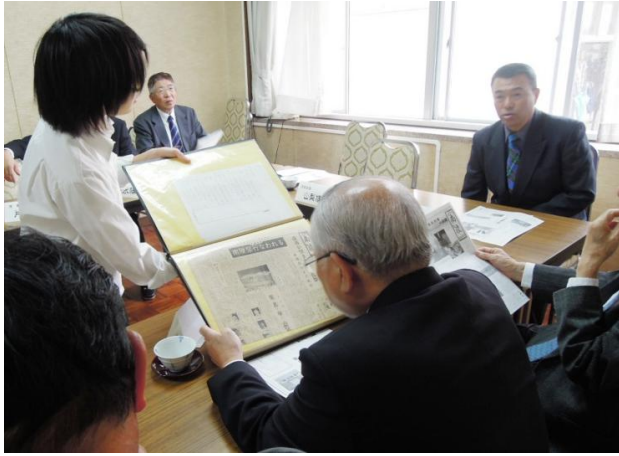
命やれることと自分の目的を持ち、努力することを大切にすれば、良い人生を送れる」とアドバイスをした。

林博道委員(第九期生) 林さんは南高の生徒に対して、「他の高校に比べても個性があふれている。失敗は積み重ねて成功になるといふことを忘れないでほしい」とアドバイスを送った。

松永一安委員 松永さんは南高の卒業生ではないが、二人のお子さんが卒業生であることから、自分の母校のように感じると話してくれた。「南高の生徒一人一人に高い目標を掲げてほしい」と期待を込めた。

伏見生委員(第一期生) 伏見さんは高校時代バスケ部に所属。練習は厳しいものであったが、練習したからこそとても強かった。その経験をふまえて生徒には「何のためか考えて行動してほしい。追求することを忘れないで」と話した。

(上) 創立二十五周年記念誌より当時の(浜下)新聞部で保管されていた南陵第三号を懐かしむ委員会のみなさん



文武両道に期待 望月真志副会長(第一期生) 本校第五期生で後援会理事長を務める望月真志さんは今回の五〇周年記念事業について「一年先にはなってしまうがエアコンの設置や、式典を開く予定。今後も南高らしさが発揮されるようにどうしていくかを考えたい」と話した。

要なお金を集め、学校の教育活動や環境整備への支援を行っている。望月さんは「今後、授業をよりよくするために生徒からの意見を取り入れなければならぬ」と話した。南高を変えていくためにも生徒自身が積極的に発言をしていく必要があるとのことだ。

卒業生として今の南高生に期待することとして「あいさつ」や「文武両道」を挙げた。「あいさつ」は社会の中で人と人の付き合いを原動力とする。また「文

武両道」については、初代福井校長が当時言った言葉でも「勉強だけでなく運動も頑張りたい」という言葉が、ポジティブに考えてほしいと笑顔で話した。

今後行いたいことについて望月さんは「南高のグラウンドを太平洋までつなげたい。そんな高校は珍しいし、お金が足りなくなってしまうとしても一期生の思いを叶えたい」と話した。